



来場者に説明する近藤会員(右)

国際協力フェスティバルに初参加

(2004年10月2日・3日開催)

愛知県会員・近藤鋭一さん寄稿文

初鹿野理事長の行動力と熱意は、着実に実を結び、聯誼協会の認知度もそれに伴って上昇しています。協会ウェブサイトの充実度に至っては、有名美術館のそれより優っているとさえ思えます。さて、私は、そんな素晴らしいNPOに加わりながら、中央から遠い所に住んでいることもあってなかなか身を提供してのボランティア活動ができません。今回初めてそれが実現したので、大きな喜びを持って体験談を書き送ろうと思いました。

ボランティア印象記

当日。天候は、猛暑ながらも好天。人出は、駅のラッシュアワー並みに多く、その9割方が若い人たちであるのには、大いに驚かされ、若い人たちも棄てたものではないとの感想をもちました。広い会場には、百を超えるテントが並んでいます。韓国留学生が中心となったカンボジア教育支援のグループと、1つテントを半々に使い、譲り合い、協力しあいのできたのもよい交流になりました。

当協会が用意したのは、募金箱、雲南民芸品や特産品、民族衣装のほか、活動紹介のパネル、会報などです。テントの中は狭く、私はもっぱら通路に立って呼び込みをしました。声を掛けるうち、中に入ってパネルを見、質問をくれる人もけっこういて、やり甲斐がありました。雲南に行ったことのある人は、反応も違ったものがあり、こちらもつい話しに熱が入りました。



協会のテント 会場は人で賑わいます

二日目の日曜日は、一転して大雨で、一日中降り通しでした。したがって、人出は初日に比べ少なかったものの、足下の悪さにもかかわらず、大勢の人が行き交い、熱心に説明を聞いてくださる方が何人もいました。そういう中



協会ブースのボランティアの皆様と

に、中国からの留学生も混じっていました。

テントからは、所々雨滴がしたり、展示物が“水害”にあうということもあり、決して条件のいい日ではありませんでした。しかし、そんな中、初鹿野理事長が多忙な時間を割いて、会場に応援に駆けつけてくださったことや、協会に協力してくださっている方々が長野県など遠方から駆けつけてくださったことも、とても嬉しいことでした。根岸氏のカンボジア教育支援のグループには、当協会の物品運搬も快く引き受けていただいております、本当にありがたいことでした。小さなテント半分のブースでしたが、多くの人に支えられて無事終わることができ、感無量でした。

私事で恐縮ですが、長男が2日に渡って応援に来てくれたことも、とても嬉しかったことです。七田さん、大久保さん、張さん、いずれも若い人たちです。こういう善意にあふれた若い人たちの尊い姿を見ることができただけでも、今回の参加は素晴らしい体験でした。またこんな機会があれば、志願したいと思います。

近藤会員は、愛知県の小学校で教鞭をとっていらっしゃいます。雲南の子供に対する情熱は大変大きく、いつも暖かい支援をいただいています。今回遠く愛知県から、2日に渡ってボランティアをしていただきました、本当にありがとうございました。